

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	並	やや多
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類（防除情報第19号）	やや多	やや多
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	コナジラミ類（防除情報第19号）	やや多	やや多
	ハモグリバエ類	並	並
いちご （本圃）	うどんこ病	並	やや多
	炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ）	やや少	やや少
	アブラムシ類	並	やや多
	ハダニ類	やや少	並
	ハスモンヨトウ	並	並
ブロッコリー	べと病	やや多(前年比)	やや多(前年比)
	コナガ	並(前年比)	並(前年比)
	ハスモンヨトウ	やや少(前年比)	やや少(前年比)
	オオタバコガ	並(前年比)	並(前年比)
	アオムシ	並(前年比)	並(前年比)
	かんきつ	ミカンハダニ	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病葉率は5.1%(3.9%)、発生圃場率は50.0%(48.6%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病を認めなかった(発病葉率0.2%、発生圃場率4.8%)。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.0%、発生圃場率1.6%)。

4. コナジラミ類

平成21年11月16日付病害虫発生予察防除情報第19号による。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%、発生圃場率は8.3%であった(前年 発生を認めず)。

イ 病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生がやや多くなっている(平成21年11月16日付病害虫発生予察防除情報第19号参照)。

ウ 苗トラップによる調査の結果、6,7月の発病株率が前年に比べ高かった(表)。

表 トマト苗トラップにおける黄化葉巻病の発生推移

年次	調査地点	60株あたり発病株数			
		6月	7月	8月	9月
H20	大村市	未調査	0.5	0	0
	南島原市	未調査	0	0	0
	諫早市	0	0	0	0
H21	大村市	9.5	1	0	0
	南島原市	2	0.5	0	0
	諫早市	0	0	0	0

注)2~2.5葉期のセルトレー苗、60株を野外に5日間設置、回収後コナジラミを殺虫。温室内に20日間維持した後、発病株数を調査した。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株の早期発見に努め、見つけ次第抜き取って適正に処分する。また、ハウス内外の雑草は病原ウイルスおよび媒介虫の発生源になるので除去する。

イ ハウス内のタバココナジラミの防除を徹底し、密度を極力低下させる。

2. コナジラミ類

平成21年11月16日付病害虫発生予察防除情報第19号による。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害株率は6.3%(5.9%)、発生圃場率は75.0%(64.5%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は3.7%(5.5%)であった。

イ 病害虫防除員の報告によると、一部で多発圃場が認められる。

ウ 向こう1ヶ月の降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。

イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。

ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率5.6%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.3%(1.8%)、発生圃場率は33.3%(19.0%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は連用しない。

イ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるものがあるので、薬剤の選定及び使用時期に注意する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.3%(2.1%)、発生圃場率は7.4%(19.4%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は4.5%(4.6%)、発生圃場率は51.9%(50.9%)であった。

ブロッコリー

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多(前年比)

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は5.0%、発生圃場率は8.3%(前年 発生を認めず)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並(前年比)

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は9.3%(前年3.7%)、発生圃場率33.3%(前年41.7%)であった。

3. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少(前年比)

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.7%(前年5.0%)、発生圃場率は16.7%(前年41.7%)であった。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並(前年比)

(2) 予報の根拠

ア 11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.7%(前年2.0%)、発生圃場率は8.3%(前年33.3%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より多く推移している(図)。

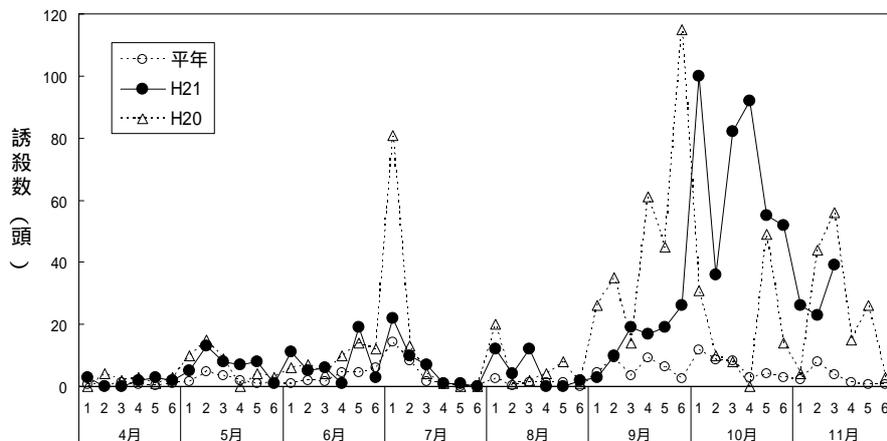


図 フェロモントラップにおけるオオタバコガ誘殺状況(諫早市) (月・半月)
H19データ:8月13日、14日、11月5日、6日データ欠測
平年: H11~H20の平均値(最大・最小除く)

5. アオムシ

(1) 予報内容

発生程度 並(前年比)

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.3%(前年2.7%)、発生圃場率は25.0%(前年25.0%)であった。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は3.5%(8.8%)、発生圃場率は48.7%(53.7%)であった。

【参考】
気象

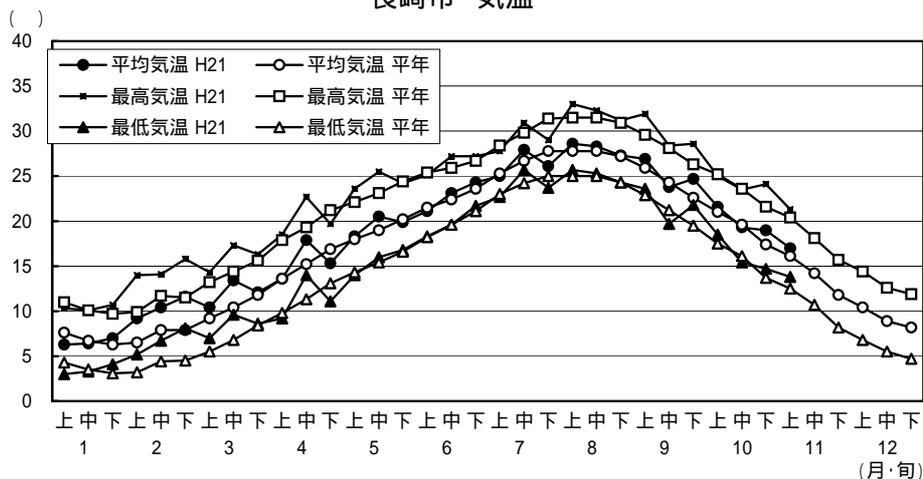
(平成21年11月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

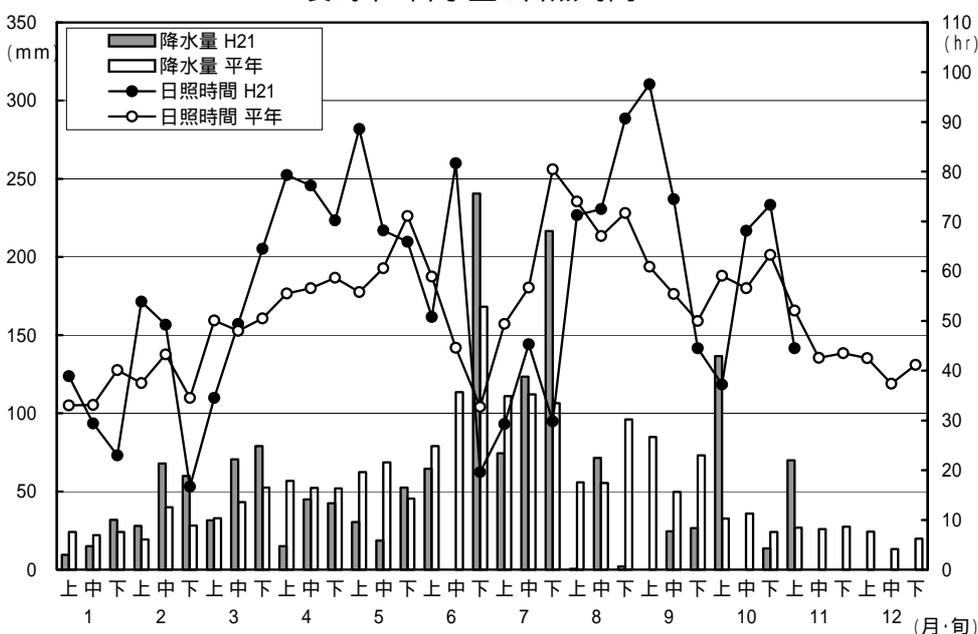
予報対象地域：九州北部地域

平成21年の気象経過（長崎海洋气象台）

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027